



教育センター・育成センター所報

平成29年度 冬号

GALILEI



冬のある日の米山さん

CONTENTS

- 巻 頭 言 P 1
 - ★「感謝の気持ちを大切に」(H29 年度小中学校 PTA 連合会スローガン)
柏崎市小中学校 P T A 連合会 会長 山崎 謙徳
- 教育センターだより
 - ★アクセス(教育研究班) P 2
 - ★プロジェクト K(科学技術教育センター) P 6
 - ★心の窓(教育相談係) P 10
- 青少年育成センター通信 P 13
- 所員随想「つれづれ」 P 15
 - ★「寄り添う」 学校訪問相談員 高橋 一也

「感謝の気持ちを大切に」 (H29 年度小中学校 PTA 連合会スローガン)

柏崎市小中学校 P T A 連合会
会 長 山 崎 謙 徳



今年度の柏崎・刈羽の P T A 連合会の会長職を拝命いたしました。

本業は IT 系のエンジニアをしており、現在は各国にある職場のコンピュータセキュリティ全般を担当しています。

会長職を行わせていただいたことで様々な経験をさせていただきました。人間として成長することができたと本当に実感しています。

私自身この職を遂行するために、以下の指針を持って活動させていただきました。

・Elementary School :

私は娘の通う小学校から選出されました。Elementary の部分は児童だけが対象ではなく、私達保護者も対象で地域や学校など様々なコミュニケーション活動の基礎を、子供たちを介して、そして PTA を介して学んでいきたいという考えのもと活動を行いました。

・Self Esteem :

自尊心を可能な限り高めるよう努めました。失敗や後悔はすべて次のステップの糧となると強く信じ活動を行いました。

・Communication :

単位 PTA の皆様方の日々の活動があってこそこの連合会だと強く感じております。連合会主催の案件では単位 PTA の皆様同士がコミュニケーションを取ることができるよう努めてきました。各単位 PTA の成功例や悩みを共有することで、学校間の絆が生まれると考え活動を行いました。

・PTA のための PPA :

時代の流れに沿って PTA もフレキシブルに変革していく必要があると考えています。PTA 活動成功のためには保護者同士の交流が必要不可欠です。PPA (Parent-Parent Association) というキーワードを作り、保護者同士の連携を重要なテーマとして活動しました。

私はあくまでもサラリーマンです。教育のプロではありません。そして単年という連合会の任期の性質上、私自身模索しながらの活動でした。その中、教育センター様、教育委員会様など、関係各所の多数の皆様のご支援によって、年度末を迎えることができます。本当に感謝いたします。

最後にお伝えしたいことがあります。平成 30 年 8 月 24 日(金)、25 日(土)に“第 66 回 日本 PTA 全国研究大会”が新潟県で開催されます。PTA の全国大会です。全国から 8,000 名の PTA 関係者が集う大会です。柏崎・刈羽では 8 月 24 日(金)にアルフォーレで“情報と人権”をテーマに全国大会の分科会を開催します。現在実行委員会を立ち上げ、企画を行っております。平日の開催となってしまっておりますが、多数の PTA の皆様方の支援が必要です。学校関係者含め何卒ご理解、ご協力いただけますようお願いいたします。

文末に全国大会のホームページのアドレスを記載いたします。ぜひともご覧ください。

<http://www.niigatacity-pta.jp/zenkoku-pta-niigata/index.php>

■ 電子黒板を活用しましょう！

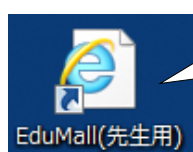
活用の3ステップ

(1) STEP1 ペンやタッチでデジタル教科書を使う

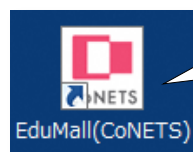
パソコンを起動して電子黒板を ON にするだけで、ペンやタッチで画面を操作することができます。書込みなどはデジタル教科書の機能を利用すれば余計な機能を覚える必要もなく、わかりやすいでしょう。

①パソコンのデスクトップにある以下のショートカットからデジタル教科書を開きます。(ショートカットが無い場合は、以下の場所からコピーしてください。)

「Public(Z:)」→「EduMall」にある「EduMall(先生用)」と「EduMall(CoNETS)」



国語以外はこのショートカットを開く



国語の場合はこのショートカットを開く



②電子黒板を使ってデジタル教科書を操作します。

(2) STEP2 「ぼうけんくん」を使う

「ぼうけんくん」で撮影した画像や動画を見せる、ノートなどをライブ映像で見せる、実物投影機のように使うといった場合、パソコンも起動する必要はなく、以下の手順で電子黒板に「ぼうけんくん」を接続するだけで準備完了です。

①ぼうけんくんの通信アダプタを電子黒板の HDMI 端子に接続します。通信アダプタは電源が必要ですので、電源ケーブルを接続し、コンセントにつなぎます。(なお、電源は AC アダプタの代わりに、microUSB ケーブルを用意して、電子黒板の USB 端子から取ることもできます。)



②電子黒板とぼうけんくんの電源を入れ、無線のアイコンが「緑色の点滅」から「白色の点灯」に変わるまで待ちます。これで、ぼうけんくん本体の映像がプロジェクターに表示されるようになります。「ライブ」ボタンで、リアルタイムに映像を投影することもできますし、静止画や動画を再生することもできます。

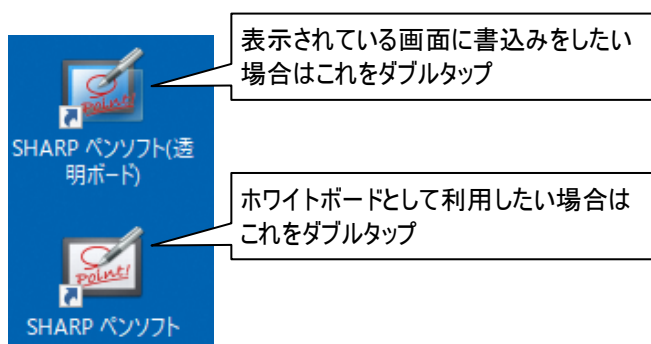


(3) STEP3 ペンソフトを使う

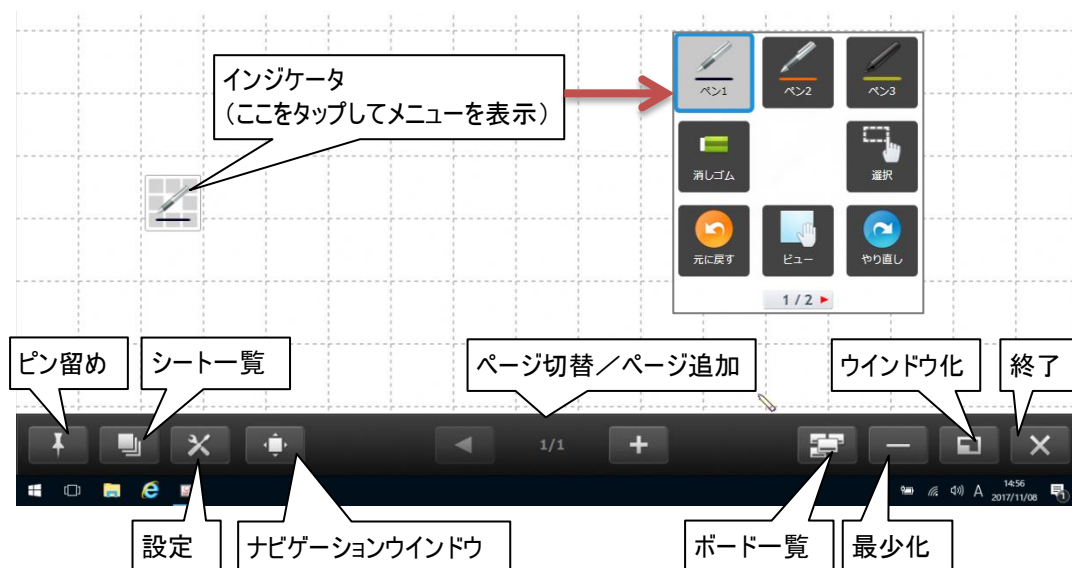
パソコンにインストールされているペンソフトを活用することで、様々なアプリケーションの画面に情報を書き込んだり、あらかじめ用意しておいた資料を提示してわかりやすく説明したりすることができます。

デジタル教科書を利用する場合は、ペンソフトの機能とデジタル教科書の機能の使い分けに戸惑うかもしれませんが、無理にペンソフトを使用しなくてもよいでしょう。

①パソコンのデスクトップに「SHARP ペンソフト」と「SHARP ペンソフト(透明ボード)」の2種類のアイコンが用意されています。ホワイトボードのように利用したい場合は前者を、他のアプリに画面に書込みをしたい場合は後者をダブルタップして開きます。(設定が異なるだけで、起動するアプリケーションは同じものです。)

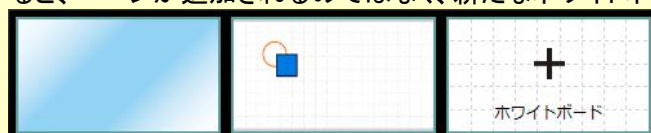


②以下の様な画面が表示されます(スクエアメニューの場合)。インジケータをクリックしてメニューを表示して操作します。(インジケータや展開したメニューはドラッグで移動できます。)



POINT

- 「ピン留め」をタップするとツールが表示された状態で固定されます。
- 「シート一覧」はホワイトボードのページ選択に、「ボード一覧」は透明ボードとホワイトボードの切り替えに使用するとよいでしょう。なお、「ボード一覧」で「+」マークの付いたホワイトボードをタップすると、ページが追加されるのではなく、新たなホワイトボードが生成されるようです。



【研修会・事業の様子】

<研修会>

○ 生活科「秋遊び」 10月19日（木）

牛乳パックで作った採集バッグを持って、夢の森公園でドングリや落ち葉などの素材を採集しました。その後、落ち葉を使ったはり絵や、ドングリごま、ペットボトルを利用したドングリ落としなど、集めた素材を生かした工作をしました。

<参加者の声>

散策して、自分で拾ったものを利用して活動するという一連の流れが楽しかった。



○ ワンポイント研修「葉脈標本作り」 10月20日（金）

ツバキの葉を使って葉脈標本を作りました。強アルカリで加熱する点さえ注意すれば、小学生でも実習が可能です。

ラミネートすると見栄えがする上、植物の葉脈が葉の隅々まで張り巡らされていることを実感できます。

<参加者の声>

酸・アルカリの性質を確認する上でも一つ一つの工程に意味があったので復習にもいいと思いました。



○ 中2「天気とその変化」 10月24日（火）

クリアケースを使った前線モデルやペットボトルで雲の発生を体感する実習をしました。また、後半は高層天気図の実習をしました。最近では地上天気図だけでは推定しにくい天気が多々あります。そんな時、高層天気図の知識があると、より授業が深まることを研修しました。

<参加者の声>

新しい教材等があればまた、教えてもらいたい。身近な物で簡単な実験装置などあればよい。



○ 小5「電流のはたらき」 11月1日（水）

自作コイル巻き器を使用して実際にコイルを作った後、電磁石の実習を行いました。また、電磁石は強い電流を流すため、こまめにスイッチを切ることや、コイル作りの留意点など授業で配慮すべきことの確認をしました。

<参加者の声>

実際にコイルを巻くことで、どのような点に注意すればよいか、児童の立場になって考えることができた。



○ 小3「明かりをつけよう」 11月8日（水）

本単元は子どもたちにとって初めての電気に関わる単元です。どうやったら電気がつくのかを試行錯誤させる上で、ショート回路など安全面に配慮すべきことの確認をしました。後半はおもちゃ作りに取り組みました。

<参加者の声>

理科は全くの素人だが、今回子どもと同じ「無」から研修を受け、少し自信がついた。実際にスイッチを作ったりして楽しく参加できた。



○ 教職員理科研究発表会 11月28日(火)

講師:上越教育大学大学院 教授 五百川 裕 様

上越科学技術教育研究会との共催で行われました。当日は上越・妙高・糸魚川・柏崎刈羽から多くの先生方が集まりました。17の発表があり、質疑応答も活発に行われ、充実した時間となりました。

後半は、上越教育大学大学院の五百川教授から「里山の自然観察」という演題でご講演いただきました。里山には主にどのような樹木が生息しているのか、戦後里山はどのように推移していったのかなどの話を伺うことができました。

<参加者の声>

先生方の発表を聴き、日々の実践や教材研究に励んでいることがわかり、大変刺激になった。本日提案された実践をぜひ今後の授業に生かしていきたい。

五百川先生の講話を聴き、里山の定義がよくわかった。また、多様性から一般性や法則を見出そうすることが科学的な見方であるという話が印象に残った。



<講師の五百川先生>

<事業>

○ 青少年のための科学の祭典 11月23日(祝・木) 新潟工科大学にて

荒天ではありましたが、今回も多くの親子づれでにぎわいました。毎回ご協力くださる柏崎工業高校「オルゴール作り」、海洋生物環境研究所「シラスふしぎ発見!」、柏崎原子力広報センター「UVストラップづくり」などのほか、STKサイエンスを楽しむ会「魔鏡づくり」など16のブースを展開しました。今回もブーススタッフとして東中・南中の生徒さんが参加し、活躍していました。ご協力くださった先生方、各種団体の皆様に感謝申し上げます。



今年も飛んだ! ペットボトル
<昼の実験ショー>



自分の顔が完成するかな?
<みんなでジグソー>



帽子をかぶると音楽が聞こえる
<電気でおもしろ体験!>

【要請授業など】

○PTA行事「あげほ祭り」(大洲小)

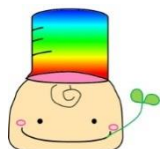
○科学クラブ(内郷小・剣野小・槇原小・新道小)

○地層観察会(枇杷島小・比角小) ※荒浜小・松浜中は荒天のため中止

○川の観察会(枇杷島小)

○放射線教育(内郷小)

○授業補助(大洲小)



カルメ焼きはうまく膨らむかな?



今期もたくさんの要請をいただきました。都合のつく限り伺いますので、いつでも声をかけてください。

(ただし、協力員は火~木曜日の午後、または金曜日のみの要請ですので、お気をつけください。)

今年度の理セン利用状況（12月末まで）

今年度も残り少なくなりました。予定している当センター主催の研修講座も残すところあと1つです。現段階での利用状況などを以下にご報告します。

1 研修・科学振興事業

(1)研修講座（教職員向け）

◇主催研修37回（昨年度35回）※うち1回は2月に実施予定

参加人数は267人（2月分含まず）でした。残念ながら研修会への参加者は年々減少傾向です。魅力ある研修会を計画することを課題として今後努力していきます。

また、先生方がより研修会に参加しやすくなるようにと、今年度は新たに16時から開催のワンポイント研修を4回実施しました。参加者は少なかったのですが、「この時間ならば参加しやすい」という声が多々聞かれました。



流れる水のはたらき（鶴川）

(2)学校等の要請研修

◇要請研修63回（うち2回荒天のため中止）（昨年度12月末まで53回）

12月末現在で63件の要請研修をお受けしました。昨年度よりも増加しています。今年度も科学研

究の勧めや、クラブ、川や地層の野外授業、放射線教育といったように多岐にわたりました。

今年度もまだ受け付けておりますので、気軽にお電話ください。



生活科「虫探し」（横原小）



科学クラブ（田尻小）



ネイチャーゲーム（二田・内郷小）

(3)科学教育振興事業

◇科学の祭典参加者数3700人（昨年度4000人）

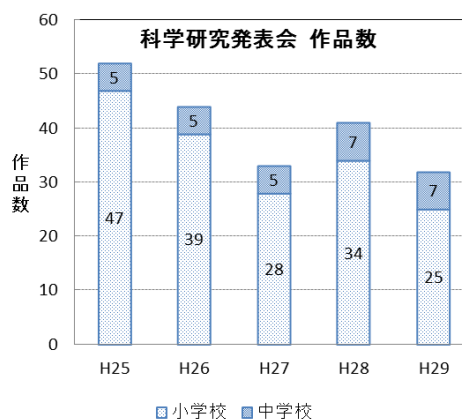
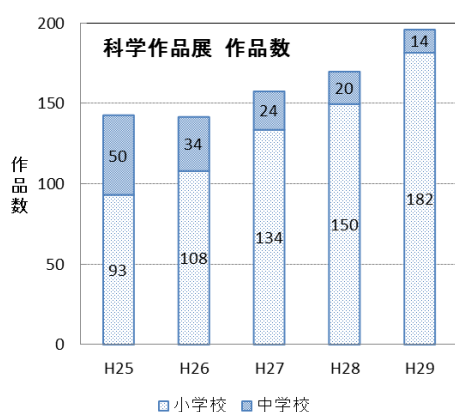
◇科学作品展出品数196点（昨年度170点）・参加校数18校（昨年度19校）

◇科学研究発表会発表数 32点（昨年度41点）・参加校数15校（昨年度16校）

◇科学研究応援プロジェクト

各種観察会（3回） 参加者165人（昨年度5回実施 241人）

相談会・名前調べ会・参考作品展 参加者376人（昨年度381人）



科学作品展や科学研究発表会、科学の祭典（春・秋）等に、多くの児童生徒が参加しました。今年度は科学作品展への出品数が増えた一方、科学研究発表会への出品数が昨年度を下回りました。しかし作品のレベルは上がったようです。各校の先生方のご指導とご協力のおかげと感謝しております。

また科学研究応援プロジェクトは、自然観察会、名前調べ会などに多くの親子が参加しました。



科学の祭典



科学研究応援プロジェクト
(昆虫観察会)



名前調べ会



科学研究発表会

2 科学教育支援事業

◇問合せ・貸出・提供の総件数525件（昨年度12月末まで525件）

年度当初の理科主任会でお配りした備品一覧表をもとに貸出しを行いました。お電話一本で必要なものがあるのかを確認できる上、借用簿の記入だけで貸出可能です（借用書は不要です）。

＜今年度 利用の多かったもの＞



騒音計

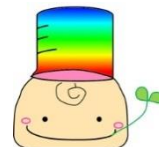


ライフジャケット



静電気発生装置

いつでも声をかけて
くださいね。



3 地域との連携

科学の祭典や各種研修などで地域の方・教育関係者の方と連携して事業を進めることができました。

柏崎刈羽地域には講師をお願いできる学識経験者が多くいる上、自然観察に適した川（上流から下流まで観察可能）・海・地層（砂泥互層、火成岩）、夢の森公園・ゆうぎ（里山の自然観察）などの他、プラネタリウムを備えた博物館、柏崎原子力広報センター（放射線教育の出前授業）など理科学習に適した環境がそろっています。

地域素材を生かした学びは郷土への愛着心を高めることにもつながると思います。是非ご活用を。



米山町聖が鼻（砂泥互層）
（下の海岸に降りると火成岩
も観察できる）



河原の広がる鯖石川中流域



天体学習に生かせるプラネ
タリウム（博物館）

心の窓

No.207

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257(23)4591(代表)

FAX 0257(23)4610

E-mail Soudan @ kenet.ed.jp



ソーシャルスキル・トレーニング



発達障害特性のある子どもを対象として、当センターでは「いろいろ体験グループ」を実施しています。これは、「ソーシャルスキル・トレーニング (SST)」の一環で、ソーシャルスキルとは、例えば、あいさつをする、人の話を聞く、自分の気持ちや考えを相手に伝えるなど、他者と関わる上で日常的に行われていることがそれに当たります。他にも、困った時に助けを求める、失敗してしまった時に素直に謝る、乗り気のしない誘いを断るなど、学校生活や集団生活の中でよく起こりうる出来事にも、ソーシャルスキルが必要になってきます。

これらは社会で生きていくために重要なスキルですが、発達障害特性のある子どもは、日常生活の中で自然に身につけることが難しく、そのため困難を抱えてしまうことも多くみられます。そこで、少人数で繰り返し練習してスキルを習得するための場として、ソーシャルスキル・トレーニングがあります。スキルを身につけることで、少しでも日常生活を送りやすくするための一助として、当センターでも「いろいろ体験グループ」を開催しています。

発達障害傾向がある子のみならず、どの子にも、大なり小なり、それぞれ苦手なことや課題があると思います。必要な力やスキルを身につけるということは、自分の苦手や課題と向き合うということにもなります。子どもの苦手や課題にあえて挑戦させるということは、保護者や周りの支援者にとっても大変なことです。回避や反発などの拒否反応を示すであろう働きかけをしなければいけないこともあり、伝える側としても頭を悩ませ、エネルギーを使うことだと思います。しかし、その子の苦手をいつまでも誰かが肩代わりしてあげることではできません。将来、その苦手と対面せざるを得なくなったとき、対処できずに困ってしまうのは子ども自身なのです。子どもが苦手や課題に向き合い、必要な力やスキルを身につける機会を得られるように、周りが導いてあげることも、時には必要なことであるように思います。

「いろいろ体験グループ」の中で子どもと関わっていると、活動の中で自身の苦手な部分に向き合い、それぞれが一進一退しながら、少しずつ成長していっているように感じます。我慢が苦手な子がわがままをぐっと我慢することができたり、発言が苦手な子が自分の好きな物の話をしてくれるようになったり…そういった場面に遭遇すると、その子なりの努力を感じてさらに応援したくなります。大概の力やスキルは、時間をかけて、徐々に成長していくものです。時には失敗しながらも、たくさんの経験や成功体験を積み重ねていくことで、社会生活を送るためのスキルや自信を身につけていってほしいと願っています。



(文責 相談員 明田川佐智)

☆ふれあいルームより☆

かかわることの苦手な通級生が、いろいろな体験を通して、人やものとかかわり、また仲間とかかわり合いながら成長した一年でした。今後も、体験活動の場を大切にしていきたいと考えています。

☆陶芸体験

10月25日には陶芸体験活動に、上下浜の石井工房『美砂華窯』へでかけ、粘土をこね、思い思いの造形を楽しみました。

11月9日、陶芸教室の2回目。初回で成形した作品を素焼きしてもらったので、それに色を付ける作業です。先生の指導のもと、作品を丁寧にヤスリがけして、各々自由に色を付けました。やり直しができないのでとても緊張する瞬間です。あとは先生に作品の焼成をお願いして完成を待ちました。



て使ったりと、多目的に使える抹茶茶碗「曜変天目茶碗」。人類史上初の造形に間違いない、埋めておいて、そのうち発掘されたらきっと世の中大騒ぎの、歴史に残るであろう、何と言ったらいいいのかわからない・・・「もの」などたくさんの芸術作品が完成しました。

作品それぞれに個の強い「こだわり」があり、それぞれ自分の作品を手に取り、感動していました。

一週間後の11月15日、作品完成です。最初は柔らかかった粘土が徐々に姿を変え、作り手の思いのこもった一つの「オブジェ」になりました。参加者の真剣なまなざしが、作品に反映しています。一連の作業をじっと見つめてきましたが、どれもこれも世界に一つのお宝でした。実用に十分こたえる職人技光る器。北大路魯山人を彷彿とさせる器。中島誠之助が「いい仕事」と唸るであろう、「曜変天目茶碗」のような、茶せんてねぎと納豆をかき混ぜたり、鍋物の取り皿とし



出来上がった作品は、教育センターの玄関ホールにて1週間程展示をして、来所した方々にも観ていただきました。職員からも「すばらしい!」「きれい!」「使いやすい♪」等の感想が聞かれました。時間をかけて世界に一つの作品を作り上げる、とても良い体験になりました。



☆そば打ち体験

12月7日、半田コミュニティーセンターの調理室で、そばを打つ体験をしました。つなぎに布海苔を使った本格二八そばです。力いっぱい練って、注意深く伸ばします。ただで麺切包丁で均一の太さに揃え、切ります。



そば打ち名人師匠様に、それぞれの工程の秘伝の技を伝授してもらいましたが、やはり絶品そばは経験と技の集大成であり、素人が簡単にできるものではなく、夢のまた夢でした。その多くの困難をふれあいルームの子供たちは、自分の得意分野を生かした「秘伝の技の分担」という、必殺技で補いました。このチームワークの良さは感動ものでした。

「上手なきしめん」のようなものや「斜めのワンタン」のようなものも、まあたしかに混ざってはいましたが、りっぱなそばをなんとか打つことができました。打ったそばを手際よく茹で、みんなで食べました。秘伝の一つに「みんなで協力し、自分たちの手で打つべし。」が加わったそばは格別です。たらふくいただき、そのおいしさに大満足でした。

☆スケート体験

12月19日、アクアパークでスケートを思う存分楽しみました。「貸し切りだから、遠慮しないでもちっと広く使えば！」の声がリンクに響きます。それでも手すりのある縁のあたりしか使わない子ども達でした。しかししばらくすると真ん中を周回したり、カーリングの模様を踏みに行ったりするようになりました。リンクのど真ん中でくるくる回ったり、後ろ向きに滑ったりするようになりました。まったくもって驚くほど上達しました。できないことに挑戦することや、実際に経験すること、また地道に練習をすることなどは、この年代の子供たちにとってとても大切なことだなと感じました。(ふれあいルーム指導員 保坂尚哉)



相談係予定

《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

【2月】

- 2日(金) 16:30~17:30 小学生Aグループ
- 9日(金) 16:30~17:30 小学生Bグループ
- 16日(金) 16:30~17:30 小学生Cグループ
- 22日(木) 18:30~20:00 中学生第1グループ
- 23日(金) 18:30~20:00 中学生第2グループ

【3月】

- 2日(金) 小学校A・B保護者会 15:00
- 9日(金) 小学校C保護者会 15:00
- 15日(木) 中学校②保護者面談 15:00
- 16日(金) 中学校①・②保護者面談 15:00

《ふれあいルーム》

【2月】

- 8日(木) スキー体験
- 13日(火) ソフィアセンター
- 15日(木) バス課外体験
- 28日(水) 中学3年生通級終了
三年生を送る会

【3月】

- 1日(木)~ 2日(金) 通級生面談
- 12日(月) ソフィアセンター
- 13日(火) ふれあい保護者会
- 23日(金) 後期後半通級終了

【4月】

- 9日(月) 平成30年度通級開始



育成センター通信

0865

柏崎市青少年育成センター

〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2

TEL0257-20-7601 FAX0257-23-4610

ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

育成委員会の研修活動

青少年育成委員会では、委員の資質向上・親睦等を目的に各種研修会等を実施しています。今年度は次の3回を実施(予定)しています。

《青少年健全育成県民大会》

毎年、新潟県が主催している「青少年健全育成県民大会」における講演会聴講を委員研修として位置づけ、希望者を募って育成委員会で参加しています。今年は、7月29日(土)に新潟県市民文化会館で開催されました。参加者は育成委員が21名と指導員2名の合計23名で行ってきました。

講演は、石橋昭良文教大学教授による「変わりつつある少年非行―いま、大人に求められていること。―」でした。また、青少年健全育成事例発表として、しばたパフォーミングキッズ代表外山陽子さんの事例が紹介されました。青少年たち(主に少女たち)のにぎやかなダンスパフォーマンスに拍手喝采でした。

《青少年育成委員視察研修》

他の地域へ出向いて青少年健全育成に関して意見交換を行うことを目的に、今年度から新しい試みとして視察研修を実施しました。視察先は青少年育成南魚沼市民会議健全育成部とし、11月26日(日)に、育成委員が16名と指導員2名の合計18名で行ってきました。現地では、南魚沼市民会議の会長・健全育成部長、南魚沼市教育委員会職員の皆様に対応いただきました。



青少年健全育成という最初の出だしは同じでも、南魚沼市で行っている活動は0～3歳までの未入园児と保護者等を対象にした子育て教室楽しみながら親子でふれ合える場所を提供する事業「そだち学級」「親子サロン」というものですが、会長曰く「これは以前、中学生が、かなり荒れていた時期があった。観光地であり、親が仕事に忙しく子どもを放任する傾向があった。こうした点の反省から、親子で小さい時からともに過ごし、コミュニケーションをとっていく場の必要性を感じたことから始まった。」ということでした。青少年の健全育成という目的が同じでも、手法はそれぞれなのだなと感じられました。

「研修なので、自分達の育成活動に直接関わることばかりでなく、多方面の知識を得る機会であればよい」との意見もあり、来年以降も青少年健全育成の先進地等を調査し、この視察研修は継続する予定です。

《座談研修・情報交換会》(予定)

例年は3月に実施している「冬季研修会(座談研修会)」を3月10日(土)に実施します。

今回の研修は「こころと命を守る ゲートキーパー研修」を演題とし、元気館にある市福祉保健部健康推進課こころの相談係の保健師を講師としてお願いしました。ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることが出来る人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。ゲートキーパー研修としては以前から市として取り組んできたものですが、今回は育成委員会として研修会を行うこととなりました。

研修会終了後、恒例の情報交換会を開催いたします。

こんな本を読みました。

最近、こんな本を読みました。少し、気になった言葉を拾ってみました
が、皆さんはどう感じ・どうすれば良いと思いますか？

(1) こんなことができますか？

■渋谷のスクランブル交差点で個人情報や自分の気持ちを書いたボードを持って30分立っている。

- ・「ネットに書き込む、何かを載せる」というのはこの行為と同じ。ただし、ネットの方が見る人が多く、一度掲げたボードは二度とおろせない（消せない）。

(2) 炎上の本当のリスク

■炎上 ■2カ月後…騒ぎが収まる ■2年後…高校合格→当日中に取り消し ■数年後…就職内定→取消
■10数年後…婚約→破談

※ネットで絶対に失敗しない方法 ①自宅玄関に貼れるものがネットの限界 ②一度貼ったらはがせない

(3) 個人特定のからくり

■六次の隔たり(地球上の人間は誰でも5人介せばつながるという理論)

- ・炎上が始まってから身元がばれるまでの時間は3～4時間
- ・炎上が始まると初期段階でも100万人を超える人が集まってくる
- ・100万人も集まれば、その中に誰も知っている人がいないという方が不自然

■こんな情報があふない

- ・自分の行動を記した情報(場所特定のヒントとなる情報) ・何気ない日常を写した写真(位置情報)

■「友だち限定」は効果なし

- ・制限がかけられたものほど他人に見せなくなる
- ・スクリーンショットで拡散…友だち限定のSNSなどありえない

■すぐ消すから大丈夫？

- ・登校した10分後には炎上→50分後に身元判明

(4) SNSの正体

■SNSとは「人を結びつけ、関係を深める」もの

■昔の伝言板に「情報が拡がる範囲…全世界」「情報が拡がる速度…一瞬」という特徴が加わったもの

■その人の本当の姿が投稿内容にギュッと凝縮されるもの(人間は一人になると本質や本性が表に出てくる)

■日常よりも、もっと謙虚に気をつかいながら使って丁度良い→自分が丸裸になる道具

11歳からの正しく怖がるインターネット～大人もネットで失敗しなくなる本 小本曾健著

1～4月の予定

1～2月	3月			4月		
	日	曜	ことがら	日	曜	ことがら
1月～2月中は街頭育成を実施しません。 育成委員はそれぞれの地区で子どもたちを見守ります。	12	月	下校育成活動	9	月	早朝育成活動
	26	月	昼間育成活動	10	火	下校育成活動
				11	水	下校育成活動
				20	金	夜間育成活動
				23	月	昼間育成活動



「 寄り添う 」

学校訪問相談員 高橋 一也

今年度から学校訪問相談員として各小中学校を訪問させていただいている。春に定期訪問として各学校に1回ずつ、以後要請があった際の要請訪問や教育センターの相談員やふれあいルームの指導員と一緒に同道訪問を行っている。

主な相談内容は学級経営に関わること、生徒指導に関わること、個別な支援を必要とする児童生徒に関わること、不登校や不登校傾向の児童生徒に関わることなど多岐に渡っている。特にどの学校でも児童生徒や保護者への対応は迅速かつ適切に行われているにも関わらず、不登校傾向や個別の支援が必要な児童生徒が増加傾向にあり、それに関する相談が多い。

着任当初は相談内容に対し、なぜだろう？ どうしてだろう？ と原因を追及することが多かった。原因の追及と即効性のある対応を求め過ぎると小さな成果やわずかな変容を見逃してしまい、かえって解決を遅らせてしまう場合もあった。今は、個別の支援が必要な児童生徒の行動も、それはその子にとって必要なことであり、そうせざるを得ないのであろうと一呼吸おいて少し遠くから寄り添うようにしている。

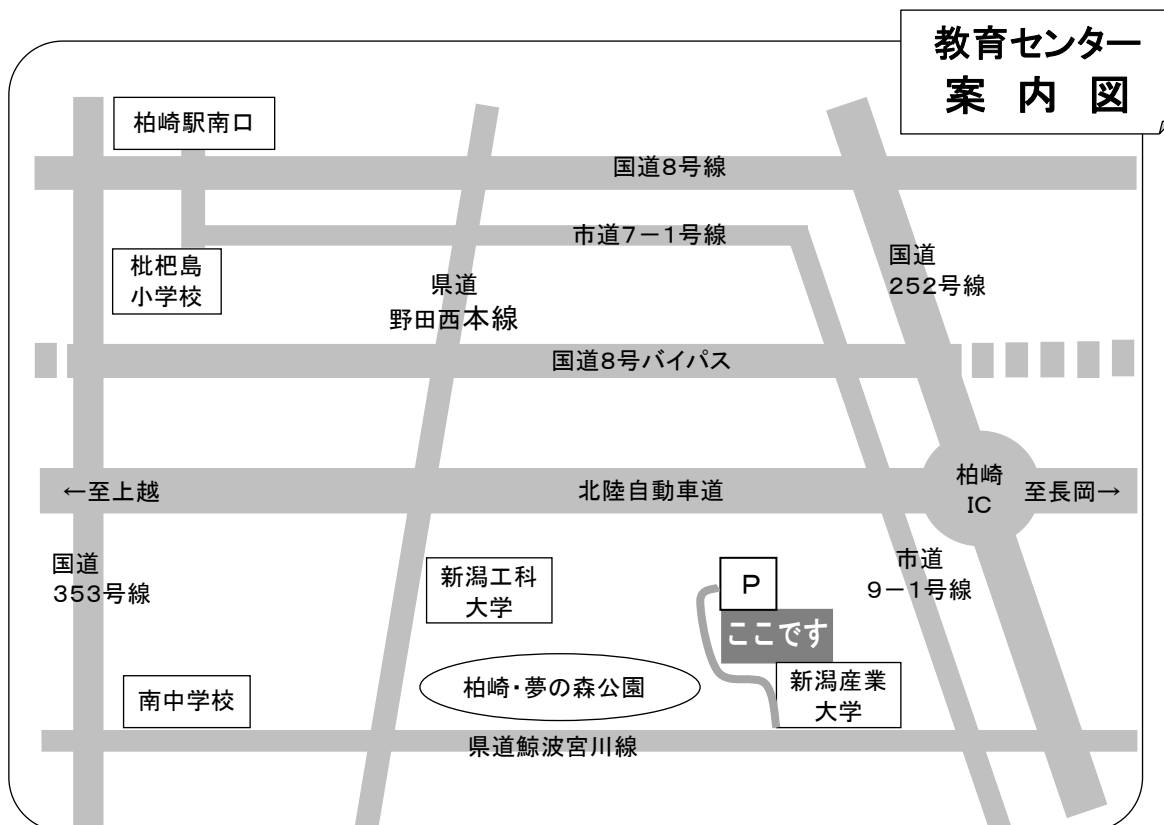
先生方は多用な執務に追われ、児童生徒とゆっくりと思うように寄り添う時間が取れず、その子の良さに気づけなかったり見逃したりしてしまうことがあるかもしれない。精一杯指導していても表だった変容や成長が見られないと、焦ったり指導力不足を感じたり自信や意欲をなくしたりすることもあるかもしれない。

先生方には、「でも、だいじょうぶ！だいじょうぶ！」と自分や児童生徒を信じ、小さな変容や成長を共有し、今まで以上に児童生徒や保護者の「思いに寄り添う」ことを大切にしながら自信をもって向き合っていて欲しいと願っている。

学校教育は社会の変化に伴い、新たに求められることや期待がより多くなっているが、教育の根底には児童生徒が「命の尊さを知る・生きることの素晴らしさを感じる・自分の人生や存在に意味や価値を見出す・人としての生き方を学ぶ」ことが重要であると改めて感じている。児童生徒が今まで以上にそれを実感できるよう現場の先生方と共に支援していきたいものである。

今後も、日々誠心誠意ご尽力されている先生方に寄り添う気持ちを大切に、少しでも役に立つことができるよう微力ながら精進していきたい。

そして柏崎市の児童生徒一人一人が自分の存在に価値を見だし、一人の人間として力強く生き抜いていけるよう、関係機関と連携した支援の充実に努めていきたい。



〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

研修講座に関する
お問い合わせは
こちら

23-1168

（にいさん、いろいろっぱ）

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（いじめ不登校電話相談）

TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成30年1月発行

=====